岩手県環境保健研究センター　*Iwate Prefectural Research Institute for Environmental Sciences and Public Health (I-RIEP)*

「岩手県環境保健研究センター」では、県民の皆様の健康といわての環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

① 県民の皆様の健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
② 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
③ 行政の課題に対応した調査研究
④ 技術支援・情報発信・研修指導

広報誌「環保研聞録～I-RIEP　Journal～」では「環保研（かんぽけん）センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしています。

つつが虫病について　（保健科学部）

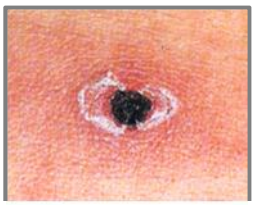
つつが虫病は、リケッチアという病原体を持つツツガムシの幼虫に刺されて発症する感染症です。刺されたあと5～15日間の潜伏期間で発症し、主な症状は発熱、発疹、頭痛で、皮膚には特徴的な黒色のかさぶた(写真)が認められます。

抗生剤による治療が適切に行われると改善しますが、重症化すると肺炎や脳炎を起こすことがあります。

県内では、例年、数例から 10 例程度の報告があり、2017(H29)年は 4 例、今年は５月に 1 例の患者報告がありました。暖かくなると越冬した幼虫が吸着活動を始めるため、春先から患者が多くなりますので引き続き注意が必要です（**図1**）。

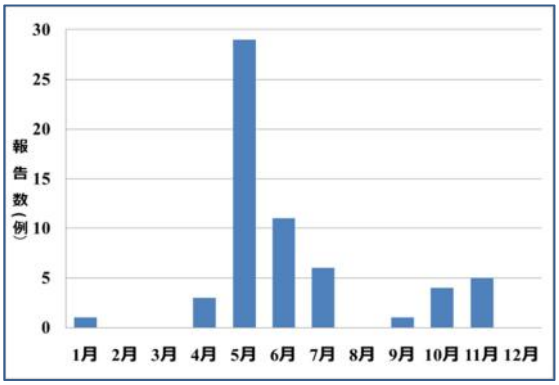
感染を防ぐには、ツツガムシに刺されないことが最も大切です。そのため、野山や田畑、河川敷などで、草むらや藪に立ち入る場合は、肌の露出を少なくしましょう。また、帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで洗い流しましょう。

疑わしい症状が出た場合は、早めに医療機関を受診し、野外で活動したことを医師に伝えることも大切です。



（写真）
出典：須藤恒久著
「新ツツガムシ病物語」

図1　岩手県の2007～2017年におけるつつが虫病患者月別報告数の累計（患者報告数 60 例）



Check!　**岩手県感染症情報センター**　http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/

麻しんの流行について　－2016～2018 年の状況－　（保健科学部）

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって引き起される急性の全身感染症です。感染力が非常に強く、同じ空間にいたり、すれ違っただけでも感染する可能性があり、免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症します。

まれに肺炎や脳炎など重症化し死亡する場合もあり、妊娠中に麻しんにかかると早産や流産のリスクが高くなります。

≪症状≫

空気感染・飛沫感染・接触感染
↓　潜伏期間：約 10 日間
風邪症状　（発熱、咳、鼻水）
↓　２～３日続く
39℃以上の高熱、発疹出現

感染力が強い

医師が麻しんと診断した場合は、直ちに保健所に届出を行うことが法で定められており、当センターでは、保健所の依頼によりウイルス遺伝子検査を行っています。岩手県では 2012 年第 12 週以降の届出はありませんが、全国では 2016(H28)年 165 例、2017(H29)年 154 例、2018(H30)年は第 18 週までに 91 例の届出がありました。

2015(H27)年 3 月に日本は麻しんの排除状態であることが国際的に認定されましたが、海外では多くの国で麻しんが流行しています。

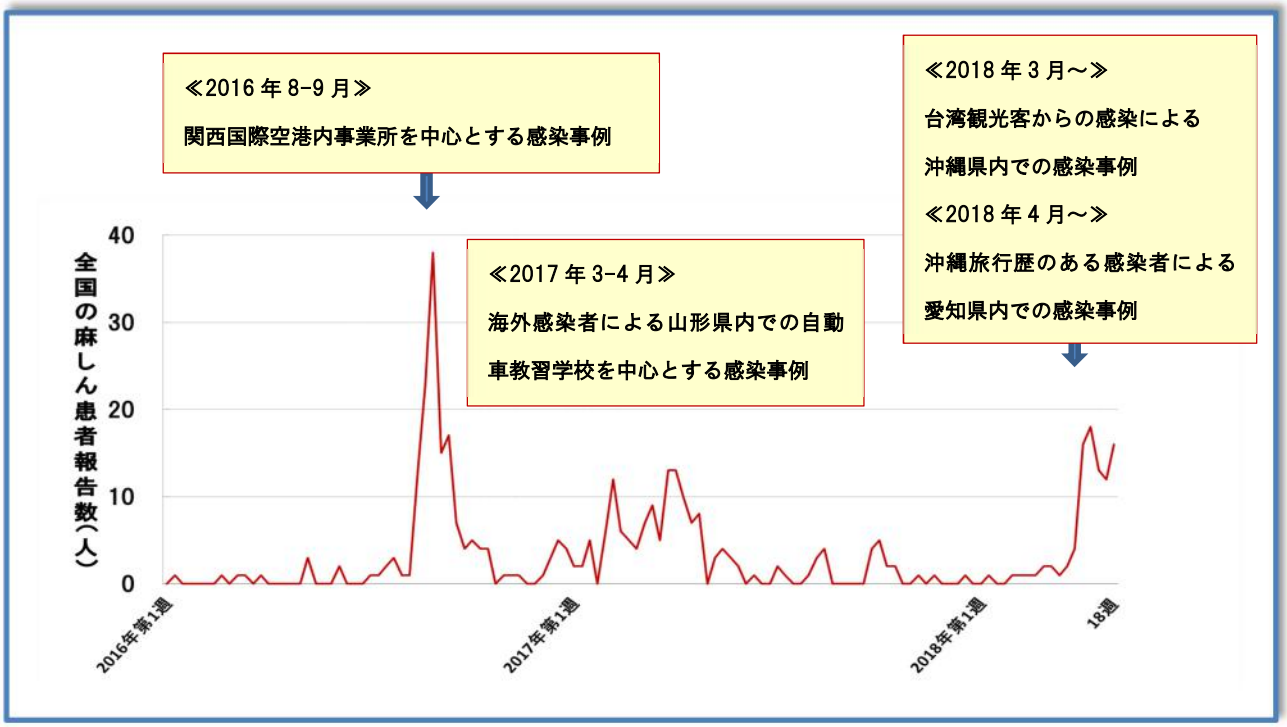
最近では、タイ、フィリピン、インドネシア等の東南アジアやイタリア等ヨーロッパで感染した患者を契機とした国内での感染拡大事例が報告されています。

2016(H28)年 8 月には関西国際空港利用者からの空港職員への感染事例（計 33 人）、2017(H29)年 3 月にはインドネシアで感染した患者からの山形県内の自動車教習所利用者等への感染事例（計 60 人）が報告されています。今年 3 月には沖縄県内を旅行した台湾観光客からの広域的な感染事例が発生し、4 月には沖縄県に旅行歴がある感染者からの愛知県内での感染事例が報告されています（**図2**）。

予防にはワクチン接種が最も効果的です。1 歳児と小学校入学前 1 年間の 2 回の定期予防接種を徹底し感染する可能性をできるだけ低くします。また、海外旅行を予定している方や不特定多数の方と接触する機会がある方で 1 回接種のみ、あるいは接種歴が不明な場合は、ワクチン接種が推奨されます。

麻しんが疑われる場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。その際は不特定多数の方が利用する公共交通機関の利用は避け、事前に医療機関に電話連絡し指示に従って受診することで感染拡大を防ぐことが大切です。

図2　全国の麻しん患者報告数（2016～2018 年第 18 週）



細菌性食中毒に注意しましょう！　（検査部）

当センターでは、食中毒発生時における原因物質の検査を行っています。食中毒の原因には細菌、ウイルス、自然毒、化学物質、寄生虫などがありますが、気温が上昇するこれからの季節（梅雨時～夏季）は細菌性食中毒に特に注意が必要です。

2017(H29)年は県内で細菌性の集団食中毒が７件発生しました。これは、過去 10 年間で最多となっています。内訳はカンピロバクターを原因とするものが４件と最も多く、黄色ブドウ球菌、腸炎ビブリオ、溶血レンサ球菌によるものが各１件ずつとなっています。

一方、患者数については溶血レンサ球菌によるものが 46 名と最も多く、次いでカンピロバクターによるものが 32 名となっています。

表1　主な食中毒菌

菌　名	主な原因食品	特　徴
腸炎ビブリオ	刺身、魚介類から汚染された食品（浅漬け等）	海水に常在する。真水では増殖できない。菌の増殖が速い。
サルモネラ属菌	鶏卵、食肉類とその加工品等	自然界では爬虫類、両生類、哺乳類、鳥類などに広く分布。乾燥に強い。
病原大腸菌	生もしくは加熱不十分な食肉、生野菜、生菓子等	腸管出血性大腸菌では溶血性尿毒症症候群（HUS）で死亡することがある。
ウエルシュ菌	大量調理されたカレー等の煮込み料理	通常の加熱調理では死滅しない。酸素があると発育できない。菌の増殖が速い。
セレウス菌	米、チャーハン、パスタなど穀類を原料とする食品	芽胞を形成し、通常の加熱調理では死滅しない。
黄色ブドウ球菌	おにぎり、弁当、調理パン、生菓子等	毒素（エンテロトキシン）は 100 度の加熱でも壊れないため、加熱によって菌が死滅しても残存する。
カンピロバクター	鳥刺し等、生もしくは加熱不十分な食肉（特に鶏肉）	少ない菌量で発症する。低温で長時間生存する。
エルシニア	糞便（特にブタ）に汚染された食品、未消毒の井戸水	４度以下の低温でも発育する。発育が遅い。
溶血レンサ球菌	弁当等の調理食品	調理従事者の咳、くしゃみによる汚染に注意。

ポイント

細菌性食中毒を予防する３つの原則

■つけない
- 手洗い
- 調理器具の洗浄・消毒

■増やさない
- 食品の低温管理

■やっつける
- 食品の加熱調理

有毒植物による食中毒に注意しましょう！　（衛生科学部）

日に日に暑さが増すこの季節、雪も解け緑がいっぱいになった山には多くの山菜が顔を出していますが、例年春から夏にかけてのこの時期を中心に、山菜取りなどで誤って採取した有毒植物を食べたことによる食中毒が発生し死亡する人もいるので注意が必要です。

全国の有毒植物による食中毒は、過去 10 年間（平成 20 年～平成 29 年）で 188 件発生し、患者数は 818 名（うち死亡 10 名）にものぼります。

その多くは、山や自宅の庭に生えていた植物を食用と間違えて採取し、自身や家族、知人が食べて中毒を起こしています。

山菜を採る際には十分注意するとともに、山菜を食べた後に体調が悪くなった場合には、すぐに医師の診察を受けましょう。

【食用と間違えやすい有毒植物の例】

件　数:12 件
患者数:20 名
（うち６名死亡）

【中毒症状】
嘔吐、下痢、皮膚知覚減退、呼吸困難。重症の場合死亡することもあり。

【間違えやすい植物】
《葉》ギョウジャニンニク、ギボウシ
《球根》ジャガイモ、タマネギなど

件　数:47 件
患者数:167 名
（うち１名死亡）

【中毒症状】
吐き気、嘔吐、頭痛など。

【間違えやすい植物】
ニラなど

件数・患者数：平成 20 年～29 年（全国）

ヒトスジシマカと地球温暖化　（地球科学部）

夏。夕涼みに窓をあけていると、ぷーんという音とともにやってきて、気づかぬうちにチクリ。

そう、蚊です。夏には蚊取り線香を焚くお宅も多いのではないでしょうか。

さて、岩手県の蚊業界（？）には 21 世紀に入ってから、新顔が登場したのはご存知ですか？「ヒトスジシマカ」という東南アジア原産の蚊です。ジカ熱、デング熱などの感染症を媒介することでも知られています。

冒頭に登場する蚊（ヤマトヤブカ等）と異なり、昼間も吸血行動を行うことが特徴です。

図3　人の血を吸うヒトスジシマカ

近年、地球温暖化の影響で生息域を北へと拡大しています。2000(H12)年時点では岩手県一関市が生息北限とされていました。2014(H26)年には盛岡市、2016(H28)年には青森市でも生息が確認されました。

当センターでは、地球温暖化の指標生物としてヒトスジシマカに着目し、2009(H21)年から、継続的に生息分布調査を行っています。

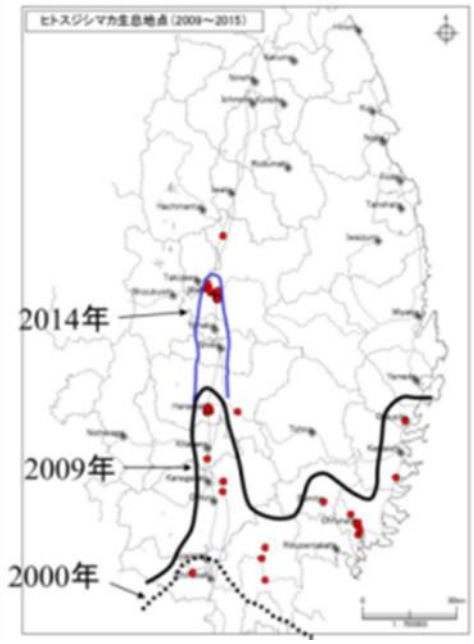


図4　岩手県内での生息域拡大の様子

2017(H29)年には、ヒトスジシマカの生息条件を統計モデリング手法により解析し、生息リスクマップを作成しました。

リスクマップの詳細については当センターHPよりご覧ください。

（http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyou/055574.html）

ヒトスジシマカは、空き缶にたまった雨水など、小さな水たまりに好んで卵を産み付けます。植木鉢のお皿や放置したタイヤなどが発生源となりますので、身近な水たまりを減らしましょう。

【編集後記】初夏の風がさわやかに吹き抜ける中、日に日に木々の緑が濃くなってまいりました。
平成 30 年度も環保研センターの業務や活動の内容をお知らせしていきますので、よろしくお願いします。(と)

予告！今年の **夏休みこども講座** は、
7 月 27 日（金）に開催する予定です。
★ 詳しくは、後日当センターの HP 等でお知らせします。

《編集・発行》 岩手県環境保健研究センター 企画情報部
岩手県盛岡市北飯岡一丁目 11-16
TEL 019-656-5666　FAX 019-656-5667
Ｅ－ｍａｉｌ：CC0019@pref.iwate.jp
ホームページ　http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/